

幼 兒 教 育

第二十二卷
第四號

大正十一年四月十五日發行

幼稚園の價值

文學博士 吉 田 熊 次

幼稚園は教育上有害ではありはしないか、と云ふ問題は、長い事議論のあつた所であります。人によつて種々な意見を有して居りますが、概して云ふと、最近までは、獨逸の教育者、殊に醫師の社會に於ては、幼稚園教育は、有害な、無益なものとする傾向がありました。之は身體の發育の上から論を立てたのであります。之は兒童の精神の發達に關しても、幼稚園より學校に入るものは、少しも長所をもつて居ない、それと反對に、幼稚園の教育の施し方に依つて、却て有害な習慣をつけられるとさへ考へられておりました。

獨逸以外の國に於ては之と反對に、幼稚園程度の教育の價值を認めてゐたのであります。佛國の如き

は、公の學校系統の中にも、小學校の下に幼稚園科を認めてゐます。又北米合衆國には、心理學、教育學の研究者として世界的に名高い、スタンレーホル教授等は、種々なる點より、幼稚園の價值を力説してゐます。即ち、教授は、精神的に幼稚園の價值を説明して、兒童の持つてゐる觀念の調査の結果として、幼稚園より進んで來た者は、他の兒童に比較して、豊富な觀念を持つてゐると、述べてゐます。

かゝる議論の別れる所は、主として、幼稚園内に行はれる保育の狀況の如何に依ることゝ思ひます。獨逸の幼稚園の教育は、フレイベル式のものでありました。最近には種々の變更を加へて居る様であり

ますが、大體はフレール式でありました。所が、フレール教育法は、方法としても幾多の疑問を含んでゐるものであります。フレールの教育思想そのものの中には、極めて最近の思想に合致するものもありません。殊に、兒童の活動を主とすると云ふ教授の方法は、所謂最近教育思想の中心となつてゐるのではありません、其の點より見れば、フレールの教育法は、最も新しい教育思想の源泉であるとも云へます、ところが、フレールの教育法の理論的基礎となること、すこぶる荒唐無稽に屬するものがあります、且つ又、根本原理を實際の教育方法、即ち、幼稚園に行はれる教育作法といふ上に應用する場合に於ても、すこぶる不快なものもあります。従つて之を兒童の經驗的心理状態にてらし合せると、すこぶる不自然であつて、兒童の身心の自然的發達を阻害する懸念も少くありません。是等の點が、主觀的な教育者や醫師をして、幼稚園の價値を疑はしめた原因であると思ひます、然るに、輓近の幼稚園教育の發達は、すこぶる著しいものがあつて、北米合衆國に於ける心理學的社會學的の考察がつけ加へられ、幼稚園の教育的價値に、一大變化を起したので

あります。

私自身は直接幼稚園に關して研究したことがありませんから、今日の教育法については、どれだけの價値があるかと云ふ事を論ずることは出来ません。然しながら、二年間、自分の子供を誠之小學附屬幼稚園に入れてありますが、この經驗から見れば、少くとも、獨逸の醫學者や教育者が心配したやうな弱點を見る事が出来ないやうに思はれます。私は、多忙のためつひ子供の通つてゐる幼稚園の實際教育を參觀したことはないから、内容についての批評はくわしくは出来ませんが、子供を幼稚園に入れたとて、身體の發育を阻害せられないのみならず、益々健康になつてゆく様であります。これは、兒童の年齢が自然に影響してゐるのかも知れませんが、即ち、満五歳頃は、健康が自然とすくむものかも知れません。然しながら、少くとも、私の家庭に於ける子供の生活と幼稚園内に於ける子供の生活を比較して考へて見ても、幼稚園の方は、子供の身體に有利のやうに思はれます。食物等も規則正しく、運動も適當に行つて居ります。

幼稚園の價値は、兄弟の多い場合と、私どものや

うに唯一人しか子供のない場合とで、事情が違ふのでせうし、又村落の家庭と、東京のやうな大都會の家庭とに於ても、亦趣が異なることでありませう。然しながら、是等の事情をひき去つて考へて見ても、惡るかるべき道理はないと思ひます。

第一、子供の最も直接に最も多く受ける感化は、最も多く子供に接近してゐるものであります。即ち家庭にあれば、母親、殊に守、外に出て遊んでゐる時は、友の影響が大事であります。然し、善良な子守を見出すことは困難な事であり、自分の家では、子供に書生をつけて置ますが、その書生が果して適當な教育者であるかどうかは問題であります。書生には、翻譯のエミールを讀まして、子供に接する心得を云ひ聞かせて居りますが、兒童の教育に關する専門の教育をうけた人々には、とても及びもつかないのではありません。幼稚園の先生方は、兒童の取扱に關して専門の教育をうけてゐるばかりでなく、兒童に對する心そのものが教育的になつてゐるのであります。このやうな専門教育をうけた子守、書生、附添等は、到底得らるべきもありません。

かやうに考へれば、道理の上から云つても、幼稚

園教育は、今迄反對してゐた人々の云ふのは、全く異つた善い成績を表してゐます。尤も、從來の幼稚園にも、色々の種類があつて、慈善的に幼兒をあづかる、こいふ事を主とした場合もあり、教育的の考へから設けられたものもありましたが、幼稚園の種類に依つては、子供の早熟を促したり、或は保母の取扱ひ方が適當でなかつた爲め、却て有害な癖をつけた事もあつたらう、と思ひます、然しながら、少くとも、自分の直接経験した範圍内に於ては、かかる缺點は影を失ふてゐると思ひます。自分は、この四月に、自分の子供を、身心健全な兒童として、幼稚園から小學校へ送る事を得た事實に鑑みても、幼稚園教育の價値の極めて大なるものなる事を、深く信じるのであります。

○御挨拶

此度、倉橋主幹も御歸朝になり、御留守居の役目も終りましたので、私は、會を退くことになりました。拙ない編輯を永く御辛棒下さつた皆様の御厚情を謝し、合せて、日本幼稚園協會の將來の發展を陰ながら祈つて居ります。

(大正十一年四月、黒瀬艶子)